

2009年度

科目名	書道科教育法A				
担当教員	永田 誠				
配当	日文3			コード	52190
開期	前期	講時	金曜日2限	単位数	2
授業テーマ	高等学校教育での芸術科書道の意義				
目的と概要	高等学校芸術科書道の楷書・行書の古典の鑑賞・実践を通じ、既成の指導案を参考に指導目標、指導内容、指導の留意点、評価等を考慮し、書を愛好する心情や感性・豊かな人間性や社会性を育成すると同時に書写能力を高める本質を考察する。				
成績評価法	実践した作品やレポート、授業態度、出席(2回以上欠席した場合は、単位の取得を認めない。遅刻2回を欠席1回とみなす。)				
テキスト	大阪書籍 書道 I				
参考書	必要に応じて紹介する				
履修に当たっての注意・助言	高等学校で書道を選択あるいは当校において2年次に書道A・B、書道史A・Bを選択履修した者、又は塾等において相応の実力を有する者に限る。				
講義計画					
第1回	高校書道教科書を参考にして、書写教育のあり方と高等学校の書道との関連との違いを理解し、芸術科書道の意図を考察する。				
第2回	書写から書道へ。漢字・仮名まじりの書の教材を通して実践し、教材研究を深める。				
第3回	漢字の書、特に楷書の成立・特徴を考察し、さまざまな楷書があることを理解する。				
第4・5回	楷書の「形」を考察する。九成宮醜泉銘・孔子廟堂碑の鑑賞・実践を通じて、時代的背景や筆者についても考察する。				
第6・7回	楷書の「線」を考察する。雁塔聖教序・顔氏家廟碑の鑑賞・実践を通じて、時代的背景や筆者についても考察する。				
第8・9回	楷書の「筆使い」を考察する。魏靈藏造像記・鄭義下碑の鑑賞・実践を通じて、時代的背景や筆者についても考察する。				
第10回	漢字の書、行書の成立と展開について考察する。				
第11回	蘭亭序・集王聖教序(王羲之)				
第12回	祭姪稿(顔真卿)、風信帖(空海)				
第13・14回	第4回から12回で学習したさまざまなジャンルを参考に、創作活動の指導を計画し実践する。				
第15回	まとめ。書の文化の現代的意義をレポートにて提出する。				